

木簡データベースの公開

当研究所では、各発掘調査機関の木簡に関する報告書、及び木簡学会編『木簡研究』に基づいて、全国出土木簡のデータベースを作成してきた。その成果は、既に1992年以来学術情報センターを通じて公開してきたが、最近のインターネットの普及に鑑み、従来の木簡データベースに木簡の写真画像を付した新たな木簡データベースを作成し、1999年5月1日から当研究所のホームページ上で外部用公開を行っている。

この木簡データベースには、外部公開用のデータベースとは別に、奈文研内部でデータの整理を行うための内部用データベースがある。内部用には平城宮・京出土で、文字が読めないなどの理由で未公開の木簡のデータが含まれているが、外部用は木簡概観などで公表したデータのみとなっている。外部用の公開項目は、木簡番号・型式番号・出典・形状・寸法・樹種・木取り・内容分類・遺跡名・発掘回数・地区名・遺構番号・所在地・本文・年号・年月日・国郡郷里・人名、及び木簡画像となっている。

奈良国立文化財研究所 木簡データベース

0 (全編) 25736件

1ボタンで全文を閲覧できます。 複製ボタンで一覧表を印刷できます。

【検索条件】 長短など種別検索 28項目のうち20項目

木簡番号	本文	型式番号	出典
000001	...	0001	...
000002	...	0002	...
000003	...	0003	...
000004	...	0004	...
000005	...	0005	...
000006	...	0006	...
000007	...	0007	...
000008	...	0008	...
000009	...	0009	...
000010	...	0010	...
000011	...	0011	...
000012	...	0012	...
000013	...	0013	...
000014	...	0014	...
000015	...	0015	...
000016	...	0016	...
000017	...	0017	...
000018	...	0018	...
000019	...	0019	...
000020	...	0020	...
000021	...	0021	...
000022	...	0022	...
000023	...	0023	...
000024	...	0024	...
000025	...	0025	...
000026	...	0026	...
000027	...	0027	...
000028	...	0028	...
000029	...	0029	...
000030	...	0030	...
000031	...	0031	...
000032	...	0032	...
000033	...	0033	...
000034	...	0034	...
000035	...	0035	...
000036	...	0036	...
000037	...	0037	...
000038	...	0038	...
000039	...	0039	...
000040	...	0040	...
000041	...	0041	...
000042	...	0042	...
000043	...	0043	...
000044	...	0044	...
000045	...	0045	...
000046	...	0046	...
000047	...	0047	...
000048	...	0048	...
000049	...	0049	...
000050	...	0050	...

1ボタンで全文を閲覧できます。 複製ボタンで一覧表を印刷できます。 入力欄にキーワードを入力して検索結果を絞り込むことができます。

検索

木簡データベース検索結果画面

システマ的には、データベースを安全かつ高速に利用できるように、内部用、外部用それぞれに別のハードウェアと、データベースソフトを用意している。内部用データベースに更新データがたまってきた時点で、公開可能なデータだけを外部用データベースに転送し、外部用データベースを一括更新している。公開している木簡の点数は、2000年6月現在で、内部用が約140,000点、外部用が約25,000点で、画像データは『平城宮発掘調査出土木簡概報』掲載の長屋王家木簡と二条大路木簡を中心に、これまでに約900点を公開している。

利用者はパソコンからwwwのブラウザソフトを使って検索を行うので、特別の検索ソフトを準備する必要がなく、操作も簡便である。検索は全文検索を基本としており、データ中のいかなる語句も検索可能である。本文に

対する検索では、結果の表示をKWICで行っており、結果の参照が容易となっている。

外部用公開から約1年間に、約1万件のアクセスがあった。新規データの入力、データの保守・更新・画像リンクの拡大の他、外字の処理・重複データの処理など、さまざまな課題を抱えたままのスタートであるが、今後より便利なデータベースとして利用されていくよう、改善に努める予定である。

なお、このデータベース作成にあたっては、各発掘調査機関と木簡学会の協力を得た。また、長屋王家木簡データベース作成グループが、1990年度から98年度の9年にわたって文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(データベース)の交付を受けた成果を含んでいる。

(森本 晋・渡辺晃宏)

平城宮跡解説ボランティア事業の開始

平城宮跡を訪れた観光客らに、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行う「平城宮跡解説ボランティア」活動を、平成11年10月5日から開始した。

研究所が募集した264名の応募者から100名を選考し、延べ5日間の基礎研修及び専門研修を受講した89名を、ボランティアとして登録した。1日当たり5～8名が、休館日の月曜を除く毎日活動しており、平城宮跡資料館、遺構展示館を拠点に、解説希望を受付けている。

活動当初から観光シーズンと小学生等の校外学習の時期に重なったこともあり、多くの来訪者を案内し、感謝の手紙が寄せられたり、マスコミに取り上げられるなど、ボランティアの熱心な学習意欲と熱意により、好評のうちにスタートした。

活動開始から平成12年3月までの半年間の活動実績は、延べ約15,000名を案内・解説し、一人当たり月平均2日の活動状況である。

研究所としても、ボランティア活動を円滑に推進するよう、ボランティア専用ウィンドブレーカーを配布し、12月には所員を交えた交流会を実施、また

比較的来訪者の少ない2月～3月を利用して、学習会や見学会を行った。

今後の課題としては、広大な平城宮跡をくまなくカバーできるようボランティアを増員し、東院庭園、朱雀門にも活動拠点を設けることや、展示施設の充実、ボランティア事務局の設置等により、ボランティア活動を支援していくことなどがある。

(庶務部庶務課)



観光客を案内するボランティア